日本スポーツ界における
自衛隊体育学校の役割に関する研究

トップスポーツマネジメントコース
5010A326-3　中川 耕一　　研究指導教員：平田 竹男 教授

【Ⅰ．序論】

本研究は、防衛省の編成一組織である「自衛隊体育学校」の日本スポーツ界における役割の変遷を考察することを目的とする研究である。

自衛隊という組織が、スポーツと密接な関係にあるということは、余り知られていない。その中心的役割を担うのが、自衛隊の戦闘訓練とは一線を画し、スポーツに特化した部門を持つ自衛隊体育学校と呼ばれる特別組織である。自衛隊体育学校では、「オリンピックにおいて活躍すること」を主目的として、射撃やレスリング、ウエイトリフティング等の 9 種目を実施している。

自衛隊の活動は、昨今の国際貢献活動等にて人々に認知されつつあるものの、日常的な自衛隊の行動や組織構成などがテレビや新聞などのマスメディアを通じて報じられることは少なく、また、自衛隊体育学校の存在や役割を知る人は少ないと思われる。

自衛隊に関する研究としては、逸見（2002）が、自衛隊法や陸上自衛隊の生徒についてまとめている。また、日本のスポーツにおける自衛隊の役割に関する研究として、関（1970）は、戦後日本のスポーツ政策に着目し、自衛隊のオリンピック支援について触れているほか、岡部（2007）は、東京オリンピックのマラソン競技で銅メダルを獲得した円谷幸吉を事例として、オリンピックにおける自衛隊の役割について述べているが、自衛隊体育学校の役割に関する研究はない。

以上の背景を踏まえて、本稿では、防衛省の編成一組織である自衛隊体育学校の日本スポーツ界における役割の変遷を考察することを目的とする。

【Ⅱ．研究手法】

本研究では、研究目的を達成すべく、2 つの分析調査を行った。

1. 自衛隊体育学校の変遷と現状分析
2. 自衛隊体育学校関係者へのインタビュー調査

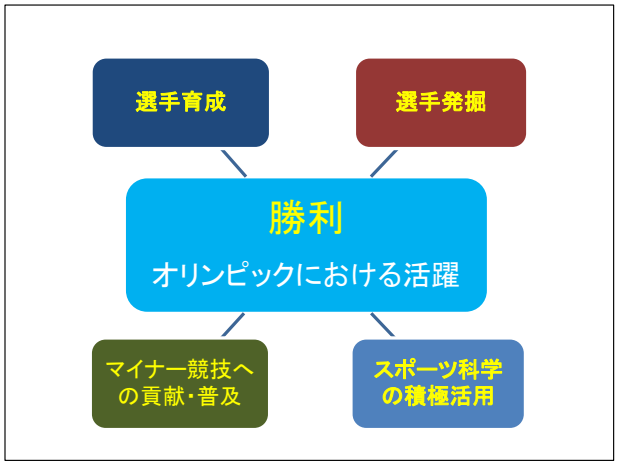
【Ⅲ．結果】

自衛隊体育学校の前身組織として、1873 年（明治 6 年）から 1945 年（昭和 20 年）の期間において、「陸軍戸山学校」という組織が「体操・射撃・剣術・戦術・軍楽等の教育研究」を普及し、進捗発達を図ることを任務として、東京都新宿区に存在していた。自衛隊体育学校は、1961 年（昭和 36 年）8 月 17 日、1964 年の東京オリンピックにて活躍する選手育成を急務として設立された。その結果、ウエイトリフティング競技の三宅義信選手、マラソン競技の円谷幸吉選手などのメダリストを輩出するに至り、現在までに 14 個（金：6 個、銀：4 個、銅：4 個）のメダルを獲得していることが分かった。一方、好成績を残すだけでなく、射撃や近代五種などの競技者人口の少ない競技において普及を担っている。尚、ロスアンゼルスオリンピック、レスリング金メダリストの宮原厚次氏（現自衛隊体育学校第 2 教育課長）などへのインタビュー結果において、自衛隊体育学校は練習環境等に恵まれていること、又、競技者引退後においても、特別職国家公務員としてのセカンドキャリアが確立されていることから競技者生活に集中できる環境であることが

分かった。

【Ⅳ．考察】

1964 年の東京オリンピック時、日本のスポーツ界は発展途上であり、三宅義信氏や円谷幸吉氏の活躍は国民に勇気と希望を与え、オリンピックで勝つことの重要性を示したといえる。それは、当時、アマチュアが主流であった日本スポーツ界に対し、大きな刺激となり、その意味で自衛隊体育学校は、日本スポーツ界にとって大きな役割を果たしてきたと思われる。一方、自衛隊体育学校が手掛ける競技種目の内、「射撃」や「近代五種」などは、競技人口が少なく、このような競技に対し、サポートを実施していることは、競技普及の観点からも重要な役割であると考えられる。さらに、現在実施している 9 つの競技に加え、「テコンドー」や「トライアスロン」、「フェンシング」等については、自衛隊の任務において、実践活用が可能であり、且つ、自衛隊体育学校の更なる発展にも繋がることから、追加種目として考慮すべきと考える。又、オリンピックにおいて活躍すべく、トップアスリートを育成する自衛隊体育学校は、逸早く「スポーツ科学」の分野に目を向け、活用をしている。これは、日本が世界に誇る「スポーツ科学」、「スポーツ医学」の分野の発展に向け、国立科学スポーツセンター等との共同体制を強固なものとすることへと繋がり、スポーツ科学界にとっても重要な役割を担っているといえる。加えて、自衛隊体育学校では、充実した練習設備のみならず、ナショナルチームのコーチが多数在籍し、一貫性を持った選手の育成・強化に集中して執り行っており、このことが選手が好成績を残すためには非常に重要であると考える。さらに、競技者引退後の「セカンドキャリア」が問題視されている昨今ではあるが、自衛隊体育学校では特別職国家公務員としてのキャリア構築がなされているおり、選手が競技に集中して取り組める環境が整備されているといえる。

又、自衛隊の活動に関しても、トップアスリートを育成するノウハウは、自衛隊の部隊教育へと活用され、自衛隊員の能力向上等へと繋がる上、自衛隊体育学校所属選手によるオリンピックでのメダル獲得、活躍は、国威発揚のみならず、自衛隊員の意識向上へと繋がる役割をも担っている。そして、日本の平和と安定、そして独立を守る自衛隊の任務において、自衛隊員が「軍事活動」といったハードパワーを前面に押し出すのではなく、ソフトパワーの代表格である「スポーツ」を用いて活躍することは、自衛隊の広報活動の役割をも担い、且つ、世界各国に対する平和的なアピールへと繋がる役割は非常に有効であり、重要であると考える。

以上より、自衛隊体育学校の設立等における背景や現状、そして、自衛隊体育学校関係者へのインタビューを基に、『勝利―オリンピックにおける活躍』を基幹とした自衛隊体育学校における 4 つの重要な役割「1.選手育成」、「2. 部隊等からの選手発掘」、「3. 競技人口の少ない（マイナー）競技への貢献・普及」、「4.スポーツ科学の積極活用」を担い、日本スポーツ界にとって、非常に重要な組織であるとの考察をした。